

アクティブ・ラーニングの技法

～タフな若者を育てるために～

2018年11月28日

河合塾グループ

KEIアドバンス

成田秀夫(河合塾 教育イノベーション本部)

➤ 成田秀夫 narita@keinet.ne.jp

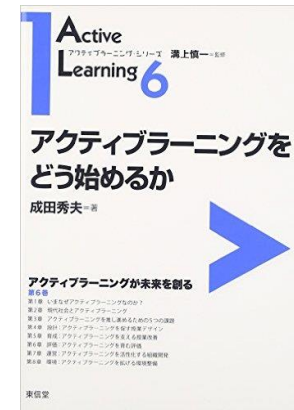
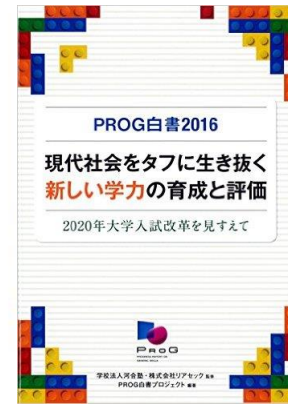
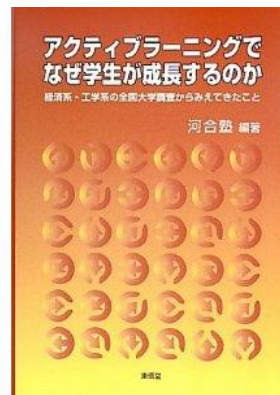
➤ 河合塾教育研究イノベーション本部 開発研究職／現代文講師

➤ 経済産業省「社会人基礎力」事務局

➤ 初年次教育学会理事

➤ 話す、聴く、読む、考える、書く、発表するスキルの育成

➤ 大学生のジェネリックスキル測定「PROG」開発



戦後最大の**教育改革の波に乗る**
保護者・教育関係者の必読書！

Amazonにて
発売中！



今選ぶなら、
地方小規模私立大学！
～偏差値による進路選択からの脱却～

(編著・報告)
大森昭生 共愛学園前橋国際大学
成田秀夫 河合文化教育研究所
山本啓一 北陸大学
吉村充功 日本文理大学
高見大介 日本文理大学

メディアで引っ張り
だこの3大学の実
例を紹介！

発送開始:10月19日
1,800円+税/並製/ISBN978-4-9909928-1-1

立教大学 経営学部教授 中原 淳 氏

巻頭インタビューで登場！

組織改革なくして大学改革なし！
すべての教育関係者に読んでほしい一冊であり、
新たな教育の価値を保護者に伝える書籍です。



『企業内人材育成入門』（出版：ダイヤモンド社、ISBN：978-4478440551）など多数の著書を持つ企業・組織における人材開発・組織開発研究の第一人者。

【目的】

アクティブ・ラーニング(AL)が求められる背景や意義、定義を理解し、授業の中で獲得すべき教育目標や身につける能力を育成するためのALの技法を確認することで、授業の中で取り組むきっかけを作る。

【目標】

- ① ALの背景と意義・定義を理解できる。
- ② 教育目標と合致したALの技法について理解できる。
- ③ 授業の中でALを実践する糸口をつかむ。

1. レクチャー

- **ALが求められる背景と意義と**
- ALの定義
- 教育目標を実現するALの技法

2. 体験

- タイプ別に学ぶALの技法

高校時代

大学時代

就職活動

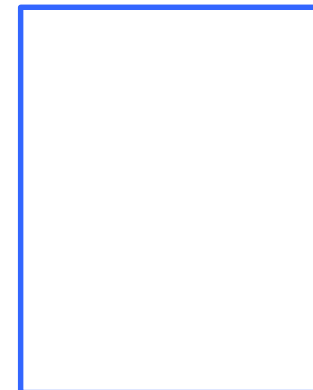
30歳前後



A君

部活はせずにコツコツ勉強。行事には積極的に参加せず。センター試験で高得点、難関大学の情報工学部に進学。

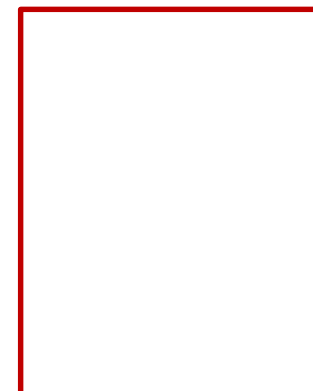
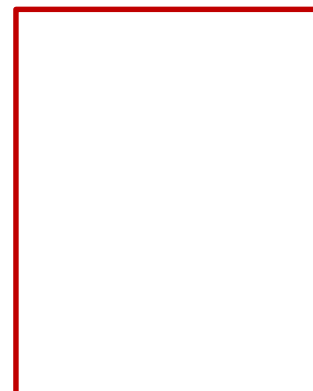
真面目に出席し、優秀成績で卒業。大学院に進学したが修士課程修了後は企業に就職する予定。



Bさん

チアリーディング部で活躍。明るい性格で仲間から好かれるが勉強は不得意。AO入試で国際教養学部に進学。

同好会に所属し、中心的な存在に。人脈をフル活用して試験も要領よくパス。大手のマスコミに就職希望。



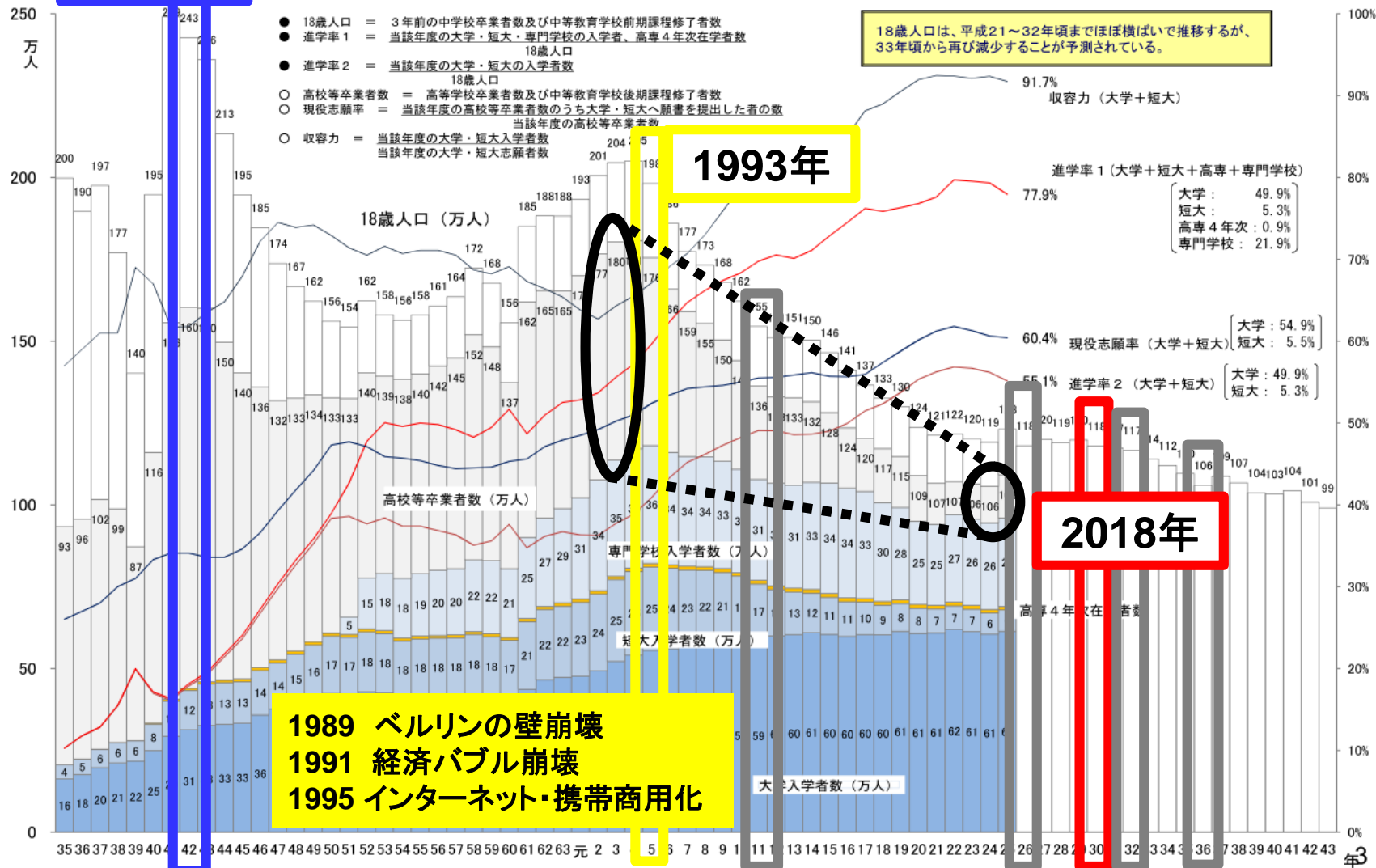
本田由紀(2005) 多元化する「能力」と日本社会 (NTT出版)

	近代社会 (メリトクラシー)	現代社会 (ハイパー・メリトクラシー)	
非正規雇用	基礎学力	生きる力	正規雇用
	標準性	多様性・新奇性	
	知識量・知的操作の速度	意欲・創造力	
	共通尺度で比較可能	個別性・個性	
	順応性	能動性	
	協調性・同質性	ネットワーク形成力・交渉力	

ただし、能力の移行ではなく、両者のバランスが必要

1967年

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移



出典：文部科学省「学校基本調査」(平成25年度は速報値)、平成38年~43年度については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(出生中位・死亡中位)」を基に作成

対自己

<3つの能力/12の能力要素> 対課題

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



- 主体性
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力
目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



- 課題発見力
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力
新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



- 発信力
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性
意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力
ストレスの発生源に対応する力

対人

<h3>1. 知識・理解</h3>	<p>専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。</p> <p>(1)多文化・異文化に関する知識の理解 (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解</p>
<h3>2. 汎用的技能</h3>	<p>知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能</p> <p>(1)コミュニケーション・スキル (日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる)</p> <p>(2)数量的スキル (自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる)</p> <p>(3)情報リテラシー (情報通信技術 (ICT) を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる)</p> <p>(4)論理的思考力 (情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる)</p> <p>(5)問題解決力 (問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる)</p>
<h3>3. 態度・志向性</h3>	<p>(1)自己管理能力 (自らを律して行動できる)</p> <p>(2)チームワーク、リーダーシップ (他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる)</p> <p>(3)倫理観 (自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる)</p> <p>(4)市民としての社会的責任 (社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる)</p> <p>(5)生涯学習力 (卒業後も自律・自立して学習できる)</p>
<h3>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</h3>	<p>これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力</p>

勉強のできる人	共通	できる人

ジェネリックスキルとは

専門に関わらず、社会で求められる汎用的な
能力・態度・志向のこと

A

知識を活用して問題解決する力
リテラシー

B

経験を積むことで身についた**行動特性**
コンピテンシー

知識を活用する力 リテラシー

情報収集力
情報分析力
課題発見力
構想力
表現力
実行力

行動特性 コンピテンシー

対 課題

課題発見力
計画立案力
実践力

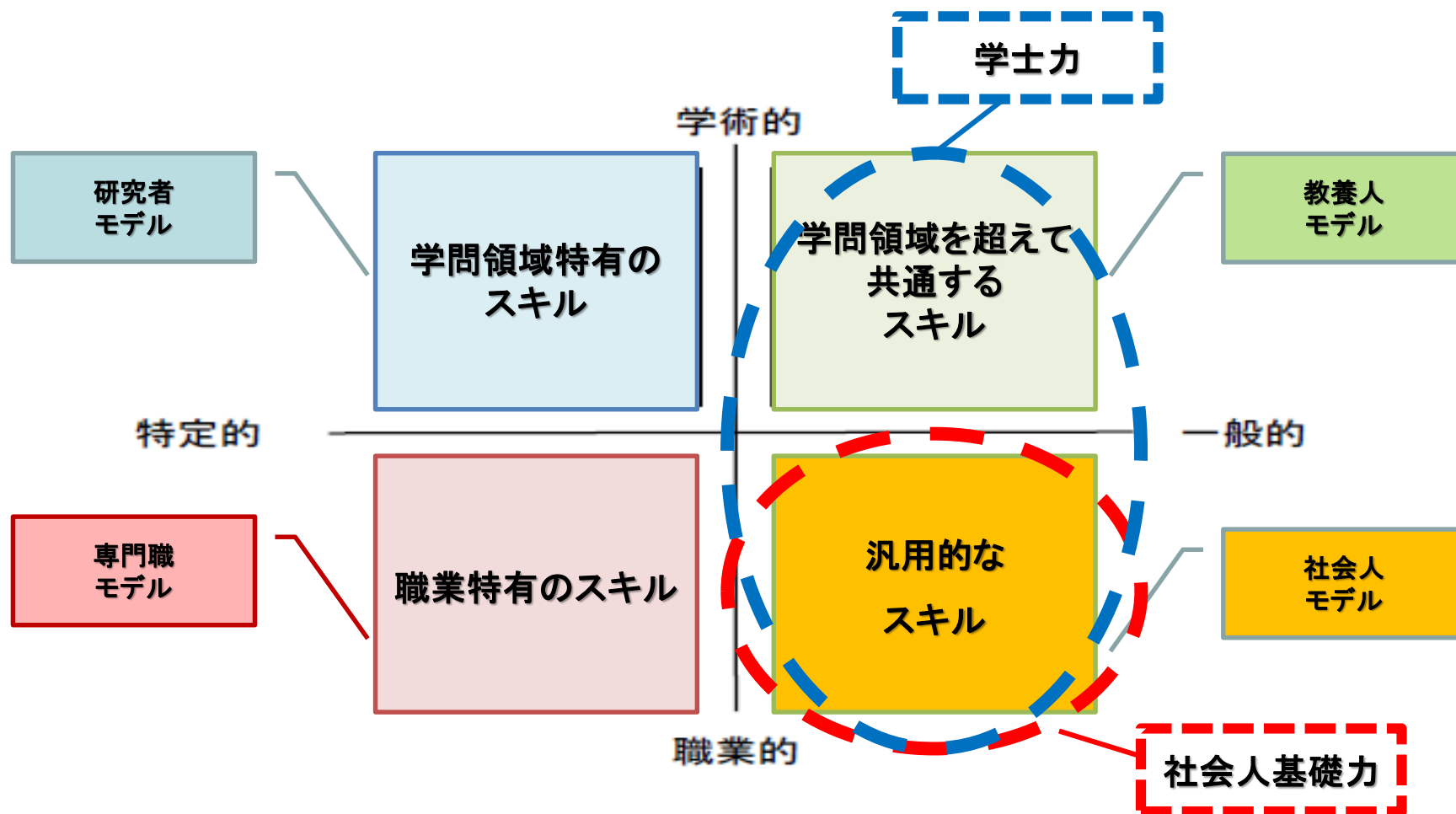
対 人

親和力
協働力
統率力

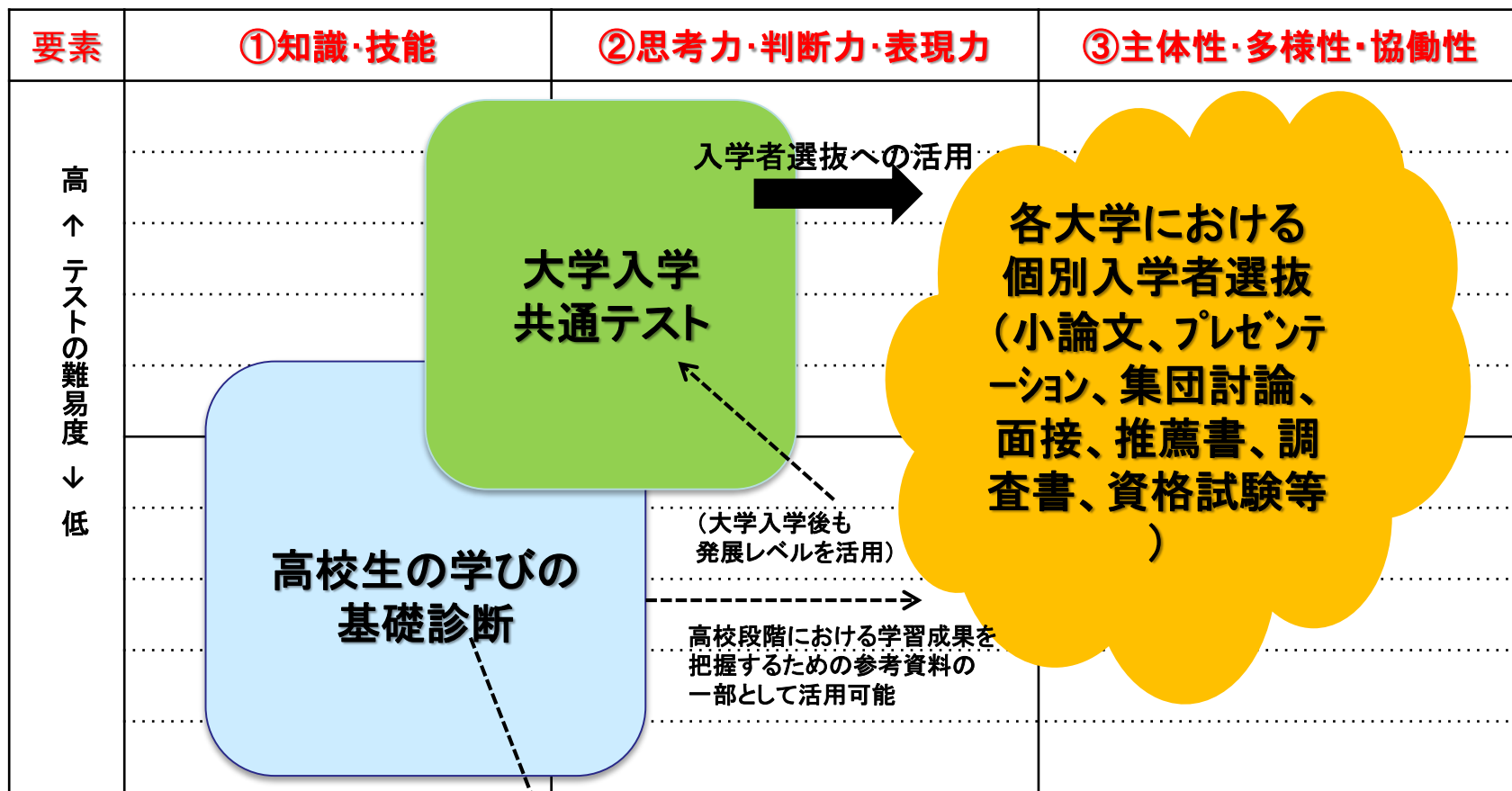
対 自己

感情制御力
自信創出力
行動持続力

➤ 高等教育のスキル(Barnett)



(2014年12月22日 中央教育審議会 答申 より)



推薦・AO参考資料の一部

- 大学入学者選抜のための仕組み
- 高校教育の質の確保・向上のための仕組み

B あるクラスの世界史の授業で、19世紀のイギリス家庭に関連した学習を行っている。以下は、授業中の先生と生徒の会話である。

先生：この時期のイギリスは、労働者階級と中・上流階級の「二つの国民」が存在していると言われていました。まず、労働者の生活の状況について見てみましょう。労働者家庭の支出に占める食費の内訳(資料5)を見てみると、どのようなことがわかりますか？

花子：南アメリカ原産の **ウ** が出ています。これは、16世紀ごろにヨーロッパに伝わったとされています。収入の多い綿加工熟練労働者よりも、収入の少ない未熟練労働者の方が支出に占める割合が高いですね。

太郎：私は、紅茶と②砂糖があることに着目しました。以前、これらは嗜好品だったので、収入の少ない人たちには手に入らなかったと勉強しましたが、19世紀になると、労働者階級でも消費することができたのですね。

先生：そうですね。それでは、次の資料を見ましょう。この絵(資料6)は、1846年に描かれた、イギリスのヴィクトリア女王の家族の絵です。これは、③当時の社会の状況と中・上流階級の家族観を表しています。それは、どのようなものだと思いますか？

資料5 労働者家庭の総支出に対する食費の内訳(1840年ごろ、横線は計上なし)

項目	綿加工熟練労働者	未熟練労働者
パンまたは小麦	23.7%	31.8%
ジャガイモ	4.7%	15.1%
オートミール*	2.0%	18.2%
バター	9.5%	—
ミルク	4.1%	16.7%
肉	13.0%	—
ベーコン	—	3.0%
紅茶	3.0%	—
砂糖(糖蜜含む)	10.1%	—
コーヒー	2.4%	—

*オートミール：主にえん麦を原料にした粥状の食べ物。
(長島伸一『世紀末までの大英帝国』より作成)

問 6 下線部③に関連して、当時の社会の状況について述べた文 a・b と、当時の家族観について述べた文 あ・いとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 24

資料 6



当時の社会の状況

- a 国王は「君臨すれども統治せず」を原則とするイギリスでは、王室に、国民生活やイギリス社会の手本を示す役割が期待されていたと考えられる。
- b ドイツ皇帝が打ち出していた世界政策への対応を迫られていたイギリスでは、王室に、イギリスの強さを示す役割が期待されていたと考えられる。

当時の家族観

- あ この肖像画の背景には、女性が良き妻・母であることを理想とする家族観があると考えられる。
- い この肖像画の背景には、戦争による労働力不足を補うために、女性も工場など家庭の外で働くことが望ましいとする家族観があると考えられる。

- ① a — あ
- ② a — い
- ③ b — あ
- ④ b — い



■ 教育は社会の変化に対応できるのか？

- 一方的な講義を聴くだけでコミュニケーション能力はつかない
- 学生は「学習＝記憶」だと思っている
- 大学入試は対課題・対自己のコンピテンシーは高めるが、対人のコンピテンシーは育成されない



■ 学生が自ら問題を発見し課題を解決できるようになる



■ アクティブ・ラーニングが不可欠

1. レクチャー

- ALが求められる背景と意義と
- **ALの定義**
- 教育目標を実現するALの技法

2. 体験

- タイプ別に学ぶALの技法

■ 本学の定義

《授業形態における定義》

- ① 発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習
- ② グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク、プレゼンテーション・振り返り(リフレクション)

《アクティブ・ラーニングを支える教室設備》

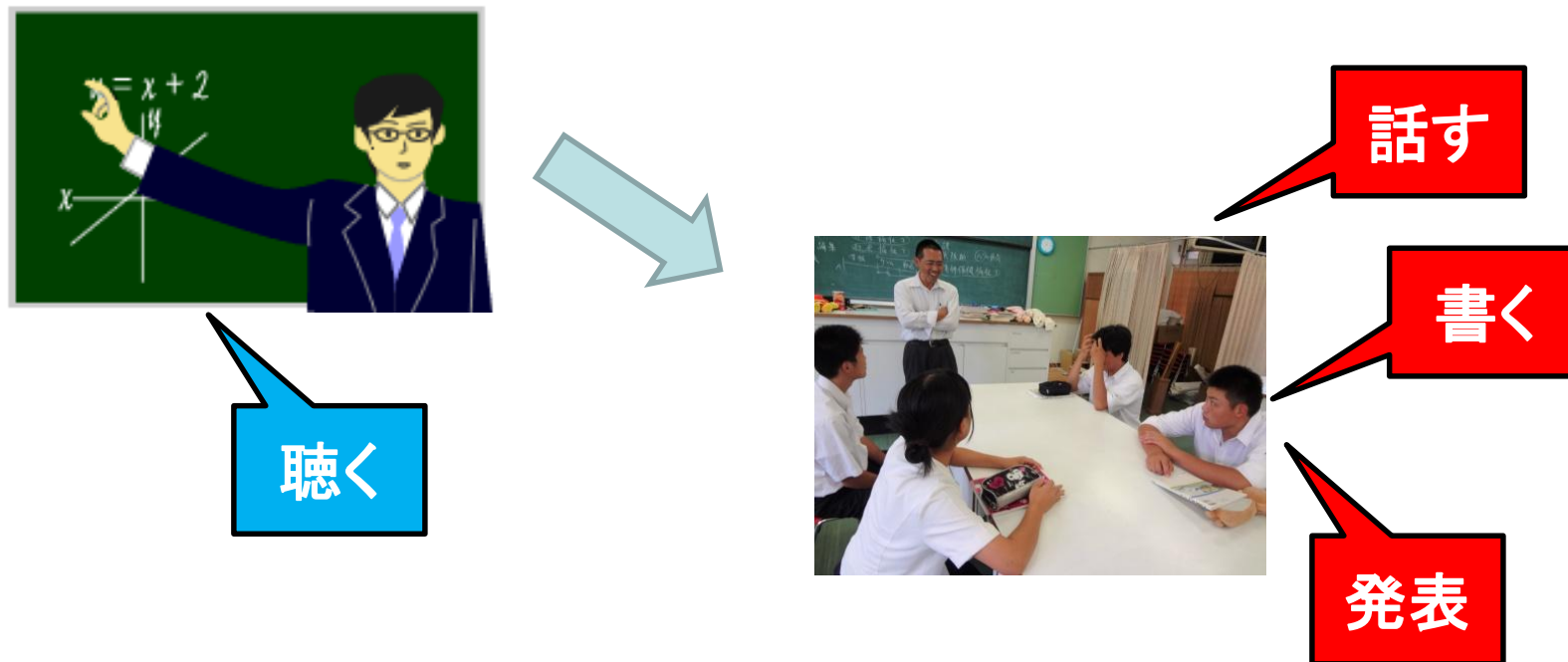
- ・ 机あるいは椅子が可動式であること。
- ・ 無線LANを使用できること。

■ アクティブ・ラーニングの定義 溝上慎一（京都大学）

一方向的な知識伝達型講義の聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化をともなう。



- 学生に「書く・話す・発表する」機会を作る
- 学生に自分の学びを「振り返る」機会を作る

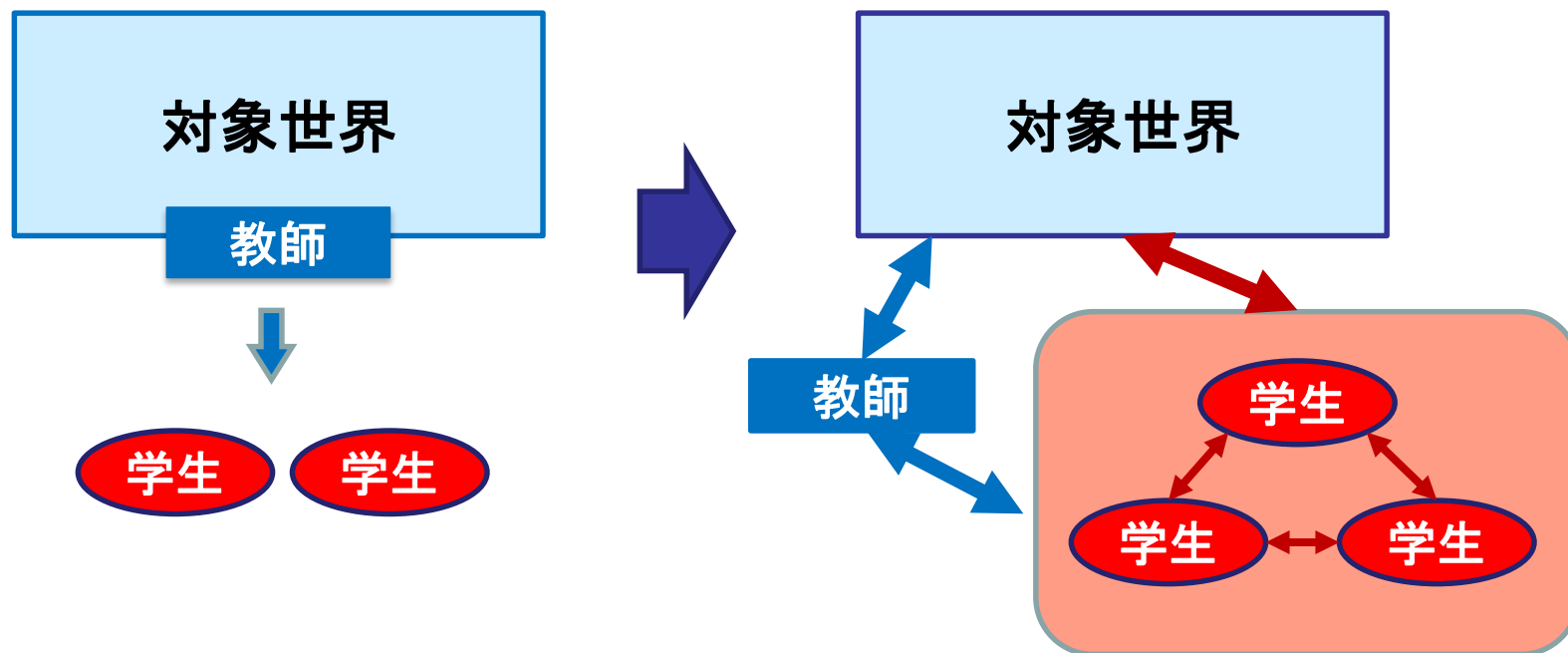


理解のプロセスを外化＝可視化する



どこが分からないかが分かる
(学びのメタ認知＝自分の学びを自分でモニターする)

■ 学びのスタイルが変わる

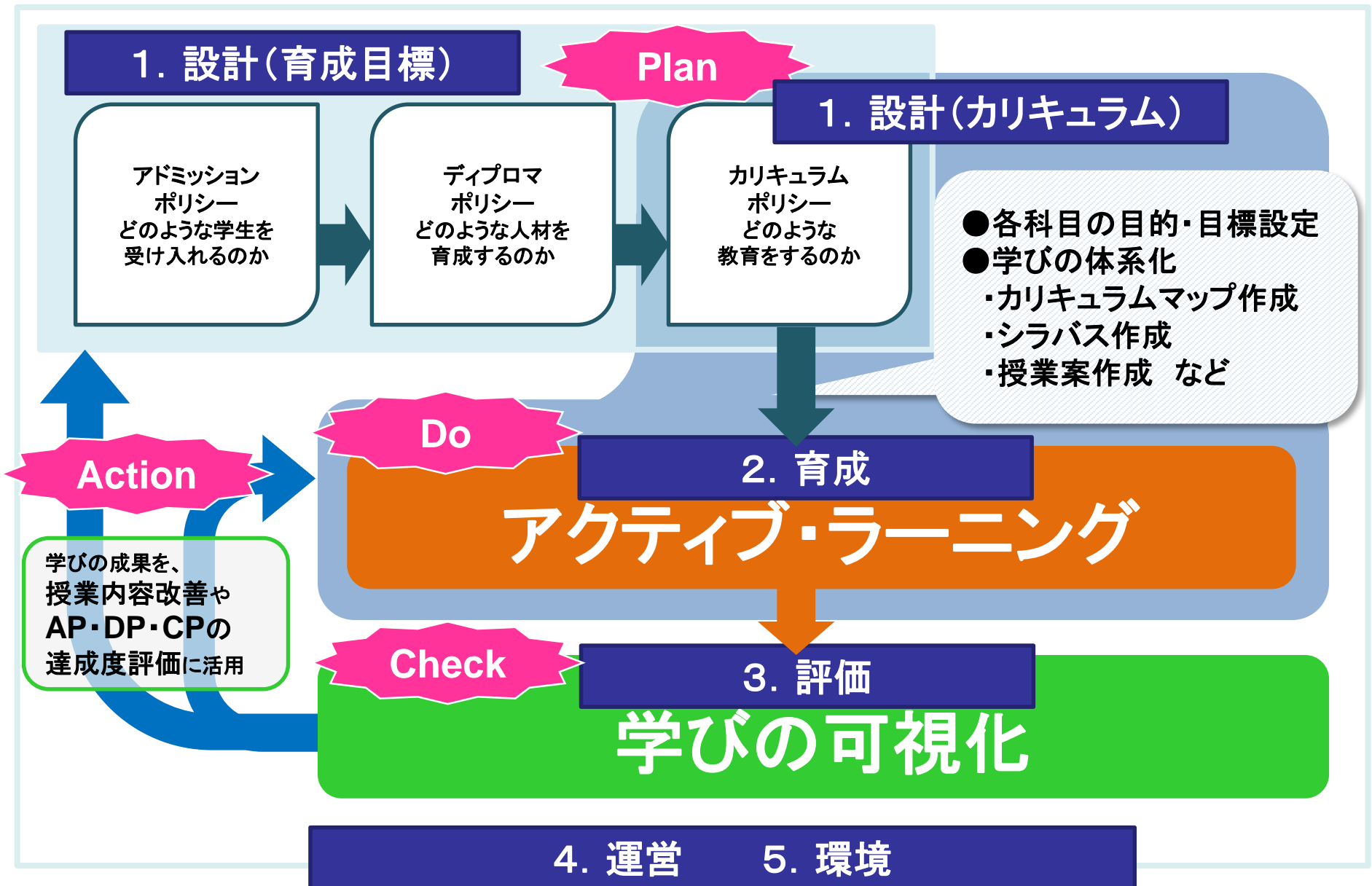


石井英真

『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』

■ 学力の3要素とアクティブ・ラーニング

	学力の三要素	講義	AL
①	知識・技能の習得	◎	◎
②	知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果などを表現するために必要な思考力・判断力・表現力などの能力	○	◎
③	主体性をもって多様な人々と協同して学ぶ態度 (主体性・多様性・協働性)	—	◎



開発のプロセス

1. 育成すべき人材像の策定



2. 育成すべき知識・技能、能力、資質の設定



3. カリキュラムの作成



4. シラバスの作成



5. 授業案の作成

今回はここだけ

1. レクチャー

- ALが求められる背景と意義と
- ALの定義
- **教育目標を実現するALの技法**

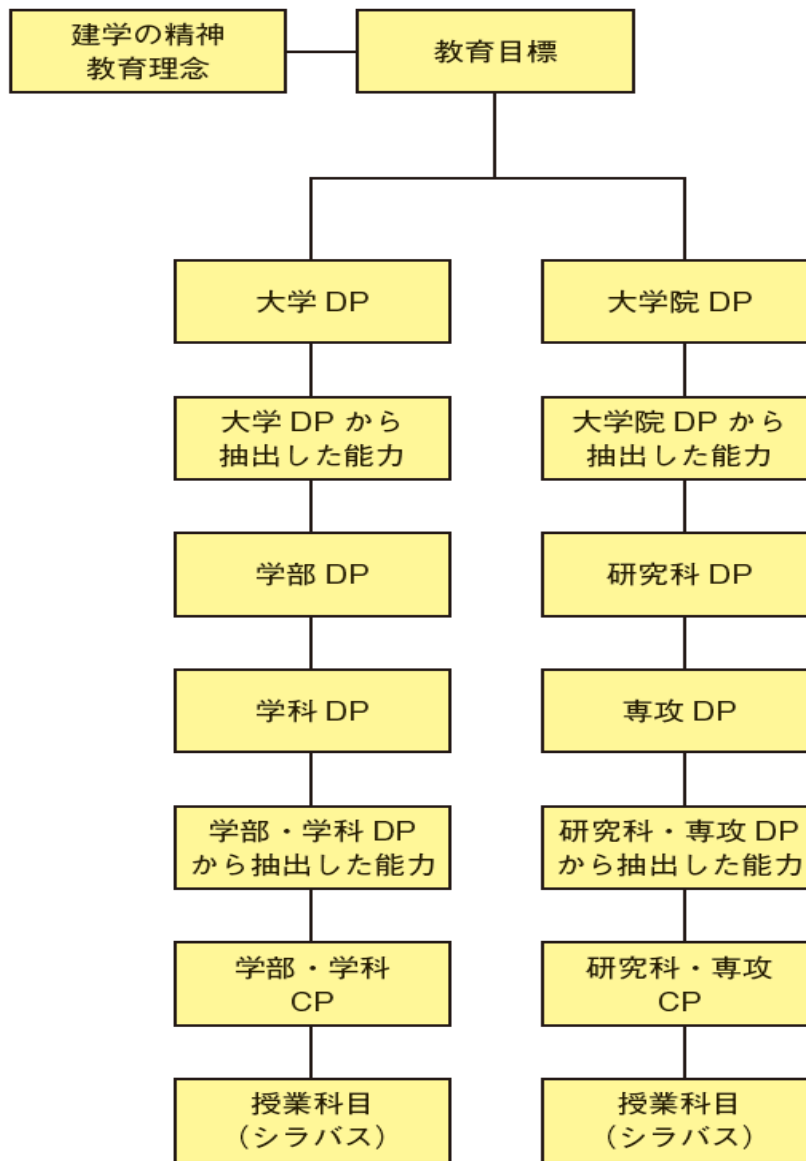
2. 体験

- タイプ別に学ぶALの技法

【建学の精神】
キリスト教による人格教育

【教育理念】
“Do for Others (他者への貢献)”

- 【教育目標】**
1. 他者を理解する力を身につける。
 2. 分析力と構想力を身につける。
 3. コミュニケーション力を身につける。
 4. キャリアをデザインする力を身につける。
 5. 共生社会の担い手となる力を身につける。

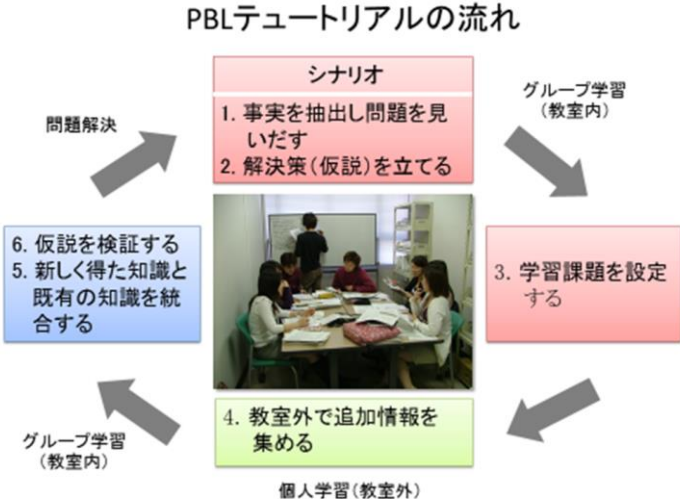


1. 歴史、文化、社会、自然、健康などに関する幅広い教養を有するとともに、専門分野に関する基本的知識を有し、これらを体系的に理解している。
2. 知識を獲得するため、またこれを活用するための技能・応用能力を身につけている。
3. 本学の根幹である「キリスト教による人格教育」を通じて、主体的に将来を切り拓き、社会に生起する問題に取り組む責任感、倫理観、協働性など他者と共に生きる力を身につけている。
4. 在学期間を通じて獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自ら課題を発見しこれを解決する能力を身につけている。

- **AL型授業の類型化**
 - **習得タイプ: 知識・技能の習得**
 - **活用タイプ: 知識を活用した課題解決**
 - **探究タイプ: 自ら選んだ問題解決**
 - **体験タイプ: 協働性・主体性の育成**

<p>本学のDP</p>	<p>幅広い教養／基本的知識と体系的理解 【対応する能力】知識・理解</p>
<p>具体的行動例</p>	<p>基本的な専門知識を習得している</p>
<p>授業例</p> <div data-bbox="99 811 294 919" style="background-color: #000080; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin-top: 20px;"> 習得 </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 70%;"> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 専門知識を講義で解説しテストで確認しながら授業を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ①知識の説明:ひとつのまとまりを説明する ②確認テスト:どこで躓いたかを確認する ③補足説明:躓いた点について解説する <ul style="list-style-type: none"> ①→②→③を繰り返す ④リフレクション ➤ シンク=ペア=シェア (Think Pair Share) <ul style="list-style-type: none"> ① クラス全体に質問を与える ② 一人で考える ③ ペアで順番に考えを述べる ④ クラス全体で話し合う </div> <div style="width: 25%; text-align: center; border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e0f0ff;"> <p>スモール ステップ</p> <p>↓</p> <p>即時 フィードバック</p> </div> </div>

<p>本学のDP</p>	<p>幅広い教養／基本的知識と体系的理解 【対応する能力】知識・理解</p>
<p>具体的行動例</p>	<p>専門知識の関係を体系的に理解している</p>
<p>授業例</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="background-color: #003366; color: white; padding: 10px; margin: 5px; width: 60px; text-align: center; font-weight: bold;">習得</div> <div style="background-color: #003366; color: white; padding: 10px; margin: 5px; width: 60px; text-align: center; font-weight: bold;">活用</div> </div>	<p>➤ コンセプト・マップ: 学習した内容を体系的に確認する</p> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;"> </div> <p>15回を講義で埋め尽くすのではなく、学んだ内容を統合して理解する時間を設ける。 学習内容をユニット化しておく、ユニット毎にまとめの時間が取れる。 グループで協力してまとめることも可。</p> <p>➤ 小レポートの作成: 学習した内容をまとめて小レポートを作成する</p>

<p>本学のDP</p>	<p>知識獲得・活用のための技能応用力 【対応する能力】汎用的技能</p>
<p>具体的行動例</p>	<p>専門知識を活用して現象を説明できる</p>
<p>授業例</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="background-color: #003366; color: white; padding: 10px; margin: 5px;">習得</div> <div style="background-color: #003366; color: white; padding: 10px; margin: 5px;">活用</div> </div>	<p>➤ PBLチュートリアル:グループで与えられた現象を仮説を立てながら説明する。 実社会での場면을切り取ったシナリオを学習のきっかけとして、そこに潜む問題を見だし、少人数グループでの討論により問題を解決していく過程を通して知識・技能・態度を学んでいくもの</p> <p>➤ 期末レポート:学期で学んだことを活用</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  <p style="text-align: center;">PBLチュートリアルの流れ</p> </div>

<p>本学のDP</p>	<p>知識・技能・態度などを総合的に活用し、課題を発見する能力 【対応する能力】統合的な学習経験と創造的思考力</p>
<p>具体的行動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①与えられた情報をもとに課題を発見できる ②課題を解決するために役立つ情報を探求できる ③現象や情報を多面的、客観的に捉えることができる ④筋道を立てて解決策を考えることができる ⑤与えられた条件から多様な発想をすることができる ⑥有意義な着想を生み出すことができる
<p>授業例 探究</p>	<p>➤ ①～⑥は、レポート作成のプロセスに即して育成することができる。 情報収集力(②)→情報分析力(③)→課題発見力(①)→構想力(④⑤⑥)</p>

授業例

➤ 初年次「日本語リテラシー」講座（九州国際大学／北陸大学）

2016年3月19日 日本語表現デザイン塾公開研究会 知識vs.経験

4

2016年3月19日 日本語表現デザイン塾公開研究会 知識vs.経験

5

事例1 文章表現科目（教養特殊講義5・6）

- 2010年より開始。1年生を4クラスに分割。4人の教員が担当。
- 達成目標…日本語リテラシー育成
- 3コマで1ユニット→4ユニットで1学期。
- 4名の教員がそれぞれ教材作成を担当。全クラス同一内容を同時進行。ALを多用。共通の定期試験を実施。
- 教材作成は「ガスト・ミーティング」



授業計画…ユニットとプロセスの導入

1ユニット(3～4コマ)

情報分析・
課題発見

- テーマ、課題提示
- 資料読解、ワークシート記入
- グループワーク(ジグソー学習法、ディスカッション)

構想

- アウトライン作成
- ピアワーク、グループワーク

表現

- 原稿用紙記入
- 推敲…ピア・レビュー
- 提出…添削して返却

<p>本学のDP</p>	<p>責任感、倫理観、協働性など他者と共に生きる力 【対応する能力】態度・志向性</p>
<p>具体的行動例</p>	<p>自分と異なる価値観や考えを受け入れることができる</p>
<p>授業例</p> <div data-bbox="116 711 308 819" style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>探究</p> </div> <div data-bbox="116 876 308 985" style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>体験</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ペア・ワーク／ディスカッション 相手の話を「傾聴」する。→受容・共感 自分の意見ばかり述べず、相手が話すことに配慮する。 ➤ 部活／課外授業 チームや仲間と安心して意見を言える雰囲気を作る。 ミーティングや話し合いを円滑に行う。 ➤ インターンシップ／短期留学 企業人・社会人や異文化の人々と接し、異なる価値観や考えを受容する。

1. レクチャー

- ALが求められる背景と意義と
- ALの定義
- 教育目標を実現するALの技法

2. 体験

- **タイプ別に学ぶALの技法**

タイプ	講義型授業	アクティブラーニング型授業		
主導	教員主導型	教員主導・講義中心型		学習者主導型
AL度	—	低	中～高	高
活動	聴く	+書く	+書く・話す・発表する	+書く・話す・発表する
手法 技法 形態	<ul style="list-style-type: none"> 話し方 板書の仕方 資料の見せ方 実物やモデルの提示 等	<ul style="list-style-type: none"> コメントシート ミニッツペーパー 小テスト クリッカー 宿題 授業通信 等	<ul style="list-style-type: none"> シンク=ペア=シェア ラウンドロビン ディスカッション プレゼンテーション 体験学習 リフレクションシート 等	<ul style="list-style-type: none"> 協同・協調学習 調べ学習 ディベート 話し合い学習法 知識構成型ジグソー法 ピアインストラクション PBL (Project/Problem Based Learning) BLP (Business Leadership Program) 等

- 講義の中にALを取り入れる(教員主導型)
 - ① 講義のみの場合
 - ② 講義そのものをALで進める場合
 - ③ 講義の中にシンク=ペア=シェアを入れる場合
 - ④ 講義の中で小テストをする場合
 - ⑤ 講義の最後に振り返りを入れる場合
 - ⑥ 講義の最後にミニツツペーパーをいれる場合

マーケティングの定義

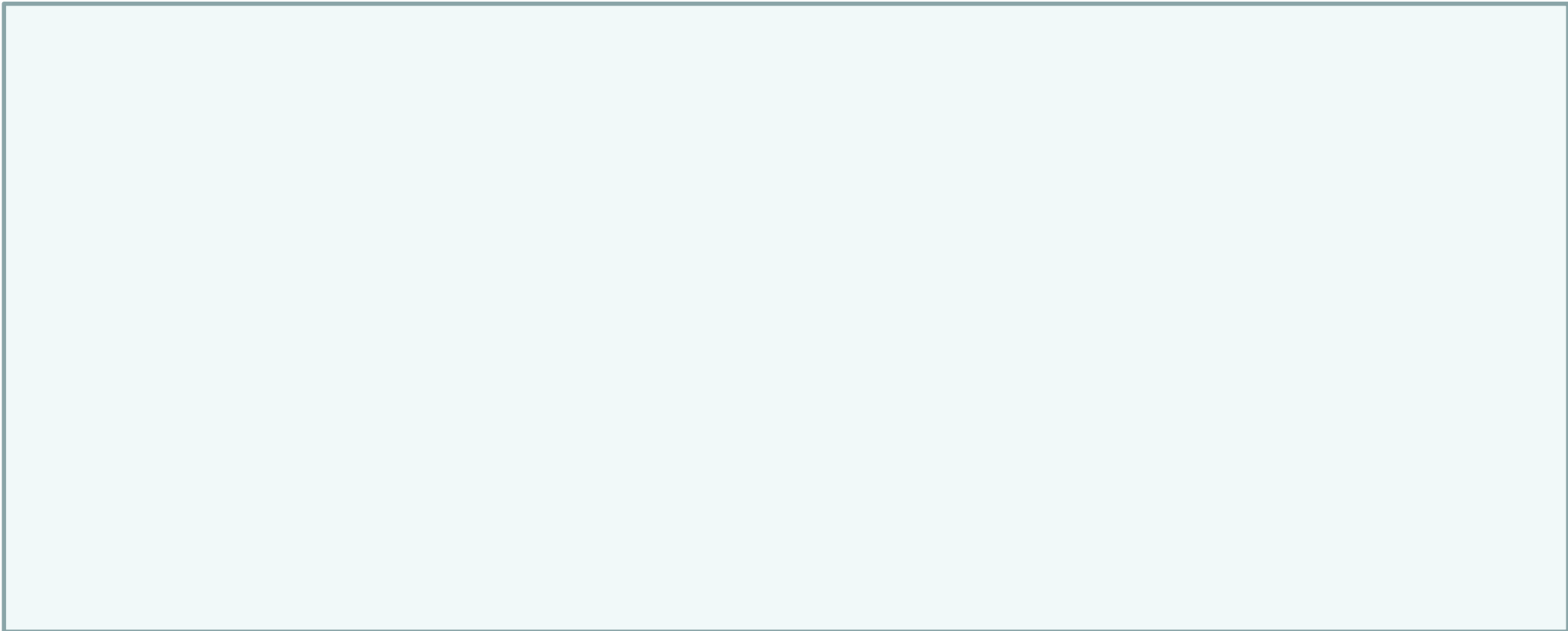
**企業および他の組織が
グローバルな視点に立ち、
顧客との相互理解を得ながら、
公正な競争を通じて行う
市場創造のための総合的活動**

(出典) 社団法人 日本マーケティング協会, 1990年

マーケティングの4P

1	Product	製品
2	Price	価格
3	Place	流通
4	Promotion	プロモーション

- Q あなたは「教員向け携帯電話」の開発・販売を担当することになりました。どのような検討を行いますか。



■ シンク=ペア=シェア (Think Pair Share)

■ 手順

- ① クラス全体に質問を与える
- ② 一人で考える
- ③ ペアで順番に考えを述べる(同時間:平等性)
- ④ クラス全体で話し合う

④ 講義の中で小テストをする場合

■ スモールステップ・即時フィードバック

■ 手順中

①講義をする

②小テストをする→**無料ソフト「PingPong」**

③理解が不十分なところを解説する

※①～③を繰り返す

④ 講義の中で小テストをする場合

次の空欄に当てはまる語句を記入せよ。

マーケティングの定義

企業および が
 に立ち、
顧客との を得ながら、
 を通じて行う
 のための総合的活動

(出典) 社団法人 日本マーケティング協会, 1990年

② 講義の中で小テストをする場合

次の空欄に当てはまる語句を記入せよ。(カタカナ、日本語も可)

マーケティングの4P

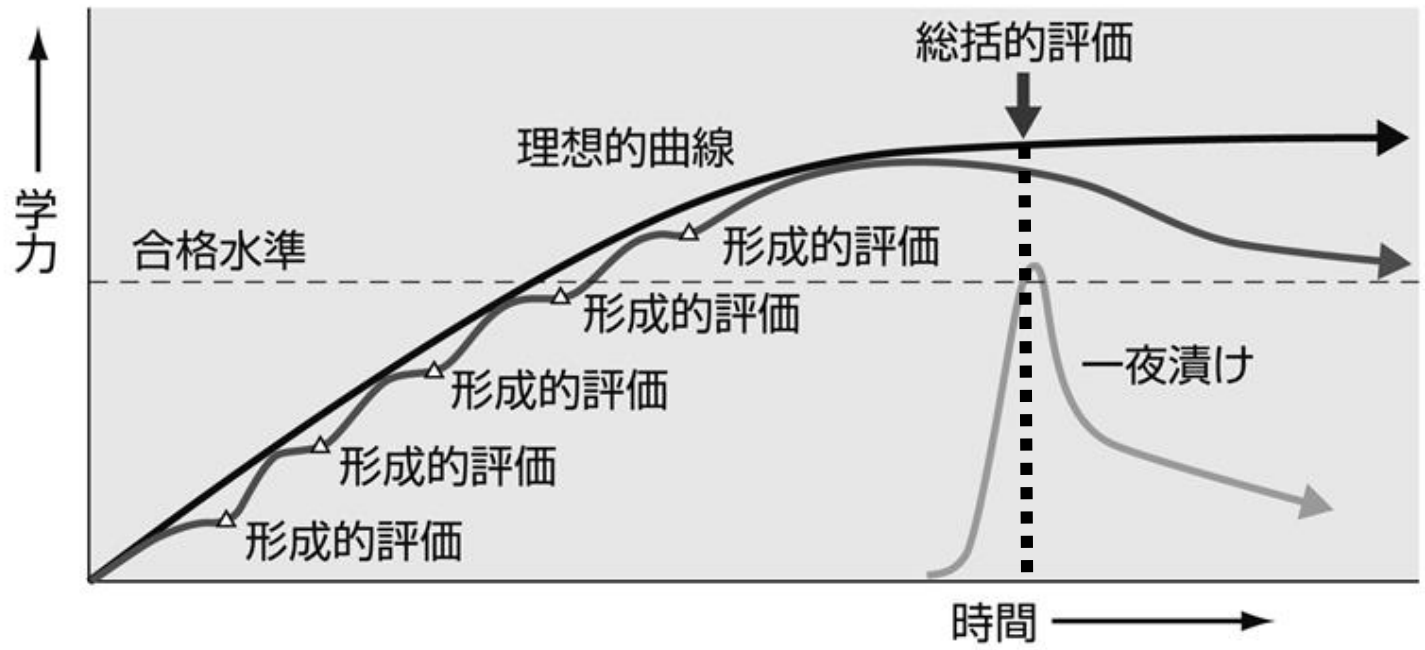
1

2

3

4

形成的評価と総括的評価



日本医学教育学会FD小委員会(2008)をもとに改作

- 振り返り: 自分の学びを振り返り言語化する
 - あなたは今日の授業でどのようなことを学びましたか？

- あなたは今日の授業でどのような力がつきましたか？

■ ミニッツペーパー：授業の理解度を数値化

■ 知識・技能

■ マーケティングの定義

①理解できた ②大体理解できた ③あまり理解できなかった

■ マーケティングの4P

①理解できた ②大体理解できた ③あまり理解できなかった

■ 思考力・判断力・表現力

■ マーケティングの4Pをつかって具体例を考察できた

①できた ②どちらとも言えない ③できなかった

■ 主体性・多様性・協働性

■ 相手の意見を受け止めることができた

①できた ②どちらとも言えない ③できなかった

溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』(東信堂)

松下佳代編『ディープ・アクティブラーニング』(勁草書房)

小林昭文「アクティブラーニング入門」(産業能率大学出版部)

安永悟訳『協同学習の技法』(ナカニシヤ出版)

堀公俊・加藤彰(2008)『ワークショップデザイナー—知をつむぐ対話の場づくり(ファシリテーション・スキルズ)』(日本経済新聞出版社)

(学)河合塾『リテラシー強化書』

(学)河合塾『深い学びにつながるアクティブラーニング』(東信堂)